目黒区いきものみどりみらい計画

～ささえあう生命（いのち）の輪（わ）　野鳥のすめるまちづくり～

令和８（2026）年３月
目黒区

目黒区の木（シイ）

シイはブナ科の常緑樹で、目黒区の公園や庭木で最も多く見られる木です。初夏に花を咲かせ、実は翌年の秋に熟します。風雪に耐え、深く根を張るその姿は、郷土を築いてきた先人の歩みを見守ってきました。将来の実りを約束し、力強く住みよいまちづくりに向けて前進する私たちの目黒区を象徴する木です。

目黒区の花（ハギ）

ハギはマメ科の植物で、秋の七草の一つです。日当たりのよい場所に生える小低木で、かつては駒場野や畑のあぜにも見られました。紅紫色や白色の蝶形の花が群れて咲き、和歌や俳句にも詠まれる美しい花です。古くから人々に親しまれ、新芽を伸ばすその姿は、明るい未来を築く私たちの目黒区を象徴する花です。

目黒区の鳥（シジュウカラ）

シジュウカラはシジュウカラ科の小鳥で、黒い頭と白いほお、胸の黒い筋が特徴です。ひとなつこく、枝から枝に飛び回って昆虫を探し、冬には小群で「ツピー、ツピー」と鳴きながら庭木を行き交います。巣箱にもよく訪れ、その姿は人と人とのふれあいを大切にする私たちの目黒区を象徴する鳥です。

みどりのつながりのシンボルとしての野鳥

《 みどりのつながりのシンボル 》

市街地の中で大小の緑地が点在している目黒区では、個々の緑地を有機的に連結し、機能を連携させるネットワークの形成が重要な課題となっています。

そこで、散在するみどりを行き来し、緑地を基盤に生活している野鳥[注)]を、エコロジカルネットワーク形成のシンボルとして扱います。さらに、海を越え、遠い国々を行き来する渡り鳥は、地球的視野に立つことのヒントを与えてくれます。

《 いきもののすめるみどりへの転換のシンボル 》

鳥類は生態系ピラミッドでは上位のいきもので、植物や昆虫等の小動物など、食料となるいきものの種類や数が豊富で、生息に適した環境があればあるほど、多くの種が生息・生育できます。

季節感やうるおいを感じ、自然と共生するまちづくりを目指すうえで、みどりの量の確保だけではなく、いきもののすめるみどりへと質の転換を図るシンボルとして、野鳥を位置づけます。

生態系ピラミッドの概念図

《区民に親しまれるまちづくりのシンボル》

ウグイスの初音を楽しむ、シジュウカラやツバメの子育てに一喜一憂するなど、庭先や身近な場所に訪れる野鳥は、区民にとってやすらぎやうるおいのある生活のシンボルです。

また、多様な野鳥の生息できる環境は、一個のいきものとしての人間にとっても暮らしやすい快適な環境であるといえます。

このように、区民に親しまれ、身近な暮らしから生物多様性が確保された自然と共生する社会を目指すきっかけとなる野鳥を、まちづくりや活動のシンボルとしてとらえます。

注）野鳥：愛玩用として飼う鳥ではなく、野外で自然に暮らしている鳥のことをいいます。

目黒区生物多様性地域戦略及び目黒区みどりの基本計画の改定に当たって

「自然と共に暮らすまちをめざして」

私たちの日々の暮らしは、まちに息づくみどりと、そこに支えられた多様な生命（いのち）の恵みによって成り立っています。目黒区は、都心に近接しながらも「みどり豊かで文化的なまち」というイメージが定着しており、公園や緑道、街路樹、住宅地に残された庭先のみどりなど、身近なみどりがまちの魅力を形づくってきました。

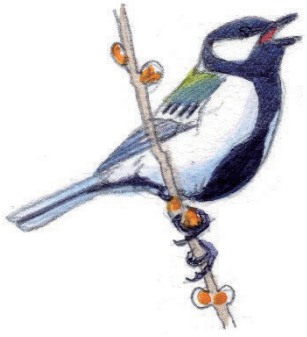
みどりは、景観の向上だけでなく、暑さを和らげ、空気を浄化し、人々の心に安らぎとうるおいを与える、暮らしの基盤となる存在です。また、いきもののいのちを支える大切な場でもあります。都市化が進んだ目黒区ですが、公園の樹林や目黒川沿いのみどり、学校や大学の敷地内など、点在するみどりがつながることで、いきもののすみかは守られています。しかし、近年そのみどりも目黒区では減少傾向にあり、量とともに、質とつながりを重視したみどりづくりが求められています。

このような背景を踏まえ、目黒区では「目黒区生物多様性地域戦略　ささえあう生命（いのち）の輪（わ）　野鳥のすめるまちづくり計画」と「目黒区みどりの基本計画」の基本理念を継承し統合した計画を策定し、みどりを守り、育て、活かすことを通じて、生物多様性の保全と魅力あるみどりのまちづくりを進めていきます。

いきものがあふれる、みどり豊かなまちづくりは、行政だけで実現できるものではありません。私たち一人ひとりが主人公となり、区民の皆さまをはじめ、目黒区で活動する事業者や学校、ボランティア、自治会など、様々な方々と連携し、それぞれの立場でいきものとみどりに関わることが重要です。一鉢のみどりを育てること、一本の木を植えること、身近な自然に目を向けること、その積み重ねが、いきものがすみ、人が集い、学び、憩う、みどりのまちを築いていきます。

その思いを込め、本計画の基本理念を「みどりでつなぐ　いのちあふれるみらいのまち　めぐろ」と定めました。まずは足元のみどりをはじめの一歩とし、人と自然が支え合うまちを育み、次の世代へと引き継いでいきましょう。

最後になりますが、本計画の策定にご協力いただきましたすべての方に厚くお礼申し上げます。



令和８（2026）年３月

目黒区長　青木　英二

― 目 次 ―

第1章 私たちの計画 1

1-1 2つの計画 2
1-2 2つの計画の統合 5
1-3 社会の動き 6
1-4 「いきもの」と「みどり」 15
1-5 生物多様性と都市緑化の重要性 16
1-6 計画の位置付けとフレーム 21

第2章 私たちのまち めぐろ 23

2-1 目黒区の概要 24
2-2 目黒区の風景の歴史 27

第3章 めぐろのいきもの 33

3-1 めぐろで見られるいきもの 34
3-2 私たちの連携による活動 43
3-3 いきものの課題 56

第4章 めぐろのみどり 59

4-1 みどりの現状 60
4-2 みどりの役割 66
4-3 みどり・公園に対する区民意向 76
4-4 みどりの課題 84

第5章 いきものとみどりの課題のまとめと改定の方向性 89

5-1 課題のまとめ 90
5-2 改定の方向性 92

第6章 私たちの未来の姿と目標 93

6-1 基本理念 94
6-2 将来像（2050 ビジョン） 95
6-3 方針 98
6-4 私たちの目標 101

第7章　私たちができること.....107

7-1　野の鳥の歌が聞こえる自然と共に暮らすまちを目指して.....108

第8章　私たちの取組 111

8-1　施策の体系.....112
8-2　施策の内容 113

第9章　重点的取組 129

9-1　重点的取組の趣旨.....130
9-2　重点的取組の内容 131
9-3　推進施策の成果指標と目標 136

第10章　地域別の方針 137

10-1　エコロジカルネットワーク 138
10-2　みどりの配置方針.....140
10-3　各地区の方針.....154

第11章　進み具合の確認.....165

11-1　計画の進行管理 166

資料編 167

第1項　計画改定の経緯.....168
第2項　懇話会の設置 171
第3項　生物多様性ハンドブック.....172
第4項　用語解説.....181
第5項　出典一覧.....197

R：（R）　資料編（第5項）で出典を示します

生物種名　原則標準和名を用いますが、別名や通称名で記述している部分もあります